

ふたなりお嬢様とメスシヨタ生徒会長の

らぶりぶりドスケブー♡

逆アサブル
恋人生活♡

ふたなりV.E.R.R♡



目次♥

- 第一話 私の彼氏はふたなりちんぽ中毒生徒会長♥ 3
- 第二話 二人の秘密♥ 11
- 第三話 おちんぽ初体験♥ 処女の処童貞喪失♥ 20
- 第四話 愛情とえっちたっぷり手作り弁当♥ 29
- 第五話 女装メイドとふたなりお嬢様♥ 36
- 第六話 夏休みおちんぽ水着男の子孕ませ無人島ツアー♥ 46
- 第七話 がんばれ♥ がんばれ♥ 逆アナル♥ 54
- 閑話 明るい家族計画♥ 68
- 第八話 えっちなホワイトクリスマス♥ 73
- 最終話 メス堕ち逆アナルマリアーージュ♥ 82
- おまけ♥ 93

第一話 私の彼氏はふたなりちんぽ中毒生徒会長♥

葉月ユナ。

生徒の自主性を重んじる自由な校風だけど、勉強が出来なければ入れない私達の学園で、いつも学年一位を取る成績優秀の男子生徒。あどけなさが残る顔と、女性みたいにスラリとした、……でもお尻はちょっとむちっとしてえっちなモデル体型。性格も優しく、満場一致で生徒会長に選ばれた、まさに絵に描いたような王子様。

学業優秀、スポーツも万能、男女誰にも分け隔て無く接する、学園の有名人、なんだけど、そんな彼の秘密はというと。

「あ♥ あ♥ ユナ君のお口、やっぱり気持ちいい♥」

「んぐ♥ ふぐう♥」

鼻の下を伸ばしてじゅぽじゅぽって♥ はあとま〜くをお目々に浮かべたような蕩け顔で♥

「飲んで♥ 飲んで♥ マイカの子種♥ 超高貴な血筋から生産されたロイヤルキンタマミルク、いっぱいご賞味してえ♥」

「ん、んんんうううう♥♥♥♥」

どびゅううう♥ ぶびゅう♥
どっぴん♥ ぼびゅ♥

私みたいなふたなりっこ……♥ ザーメンいっぱいごきゅごきゅするのが大好きな、ド変態ちんぽ中毒男の子って事なの♥

「ん、くううう♥ お、でりゅでりゅ♥ 彼氏のお口におちんぽマラ汁いくらでもどっぴゅんできるう♥ 無限供給はじまっちゃう♥ インフニティミルクキゅウ♥」

ひゃああ……、凄い、濃すぎてゆっくり尿道ちんぽ通り抜けてく♥ ゼリーみたいなザーメンユナ君のお口に注いじゃう……。……って、あれ♥ ユナ君、ぷるぷる震えて……♥

ぼびゅ♥ びゅる♥ びゅる♥

「ああ！ ああああ！♥」

ま、また射精してくれたあ……♥ 私の精子飲んだだけでっぴゅん、え、えっち、えっち♥

「ユナ君の変態♥ 変態♥ マイカのザーメン飲んだだけで射精なんて♥」

変態、変態い♥ おちんちんミルク飲んだだけで射精するなんて……♥♥♥

二人供射精しきったあと、チンポを口から引き抜くの。カリ高で亀頭がパンパンな私のおちんぽ、ふっくらまるまるの金玉付きおチンポをうっとり眺ちゃってる♥ それでユナ君は、まだ童貞の私より一回り小さいおちんぽからびゆるびゆる射精する♥ ああ、こんなのスケベ過ぎるわよお、凄く興奮しちゃう♥

「ちょ、ちょっとエロ過ぎる♥ 男としてダメ過ぎる♥ なんなのかしらユナ君♥ おちんぽ汁でおちんぽっぴゅっぴゅなんて、男としてどうなのよ♥」

「そ、そんな事言われても、だって……」

ユナ君は、目をそらして、顔を赤くして、

「……マイカさんの事、大好きだから」

「~~~~~♥♥♥」

「え、うわ！」

が、我慢できない、ハグしちゃう！♥ キスもしちゃう♥

じゅる、じゅるう、ってえ♥ 舌を絡めて、口の中の濃厚なザーメンをしゃぶりあうような、スケベなキスするの♥ 頭が蕩けちゃうえっちなキス♥

口を離すと、唾液、じゃなくてザーメンのかけはしが出来ちゃってる。お互い息を弾ませるけど、おかげで、お互いスケベな匂いいっぱい嗅いじゃって、……おちんぽたってきちゃう♥

「うう~~~~♥ ユナ君、可愛い……、普段は色んな女の子にチョッカイかけられる女顔のイケメンなのに」

「か、かわいいのかなあ……♥」

「かわいいわよ！ 女の子みたいな甘いマスクで、モデルみたいにスラっとして♥ 文武両道、生徒会長の仕事も完璧にこなす、どこに出しても恥ずかしくない男の子なのに、……チンポの前だとすぐ可愛くなるんだからあ♥」

好き♥ 好き♥ って言いながら、ほっぺたにチュー♥ はあ、だっこしあうだけで幸せだなあ……このまま時間が止まっちゃってもいいなあ……。

なんて、油断してたら♥

ぎゅむうううう♥

「んひんほおお！？♥ ユ、ユナ君ダメよ♥ 不意打ち金玉モミモミはだめえ♥」

「さっきから意地悪な事言うから、お返し……♥」

金玉を握られる！？ 主導権も握られちゃう♥ 指の間からエロ肉がはみでちゃうんじゃないかってくらい、強めに♥ つ、つぶれりゅうううう！♥ つ、つぶさないよね？ 大丈夫、んひゃあ！♥ い、いだぎもちいいのお〜〜〜♥ キンタマにサディスティックだよおユナくううん♥♥♥

「本当金玉よわよわなんだから……♥ ほらほら、男にメス金玉手玉にとられて恥ずかしくないの？♥」

「恥ずかしい、恥ずかしいです♥ 日本有数の財閥キキョウインググループのお嬢様でありながら、彼氏にキンタマ握られちゃっただけで服従しちゃうマゾフタナリメスで申し訳ありません♥」

「うんうん、それじゃ手、離してあげるね♥」

「や、やだやだやだっ♥ もっとマイカのキンタマ舐けて、調教してっ♥ お高くとまったお嬢様を、ユナ君専用のタマミルクサーバーに奴隷堕ちさせてえ♥♥♥」

「ミ、ミルクサーバー……♥」

あ、うう♥ ちょっと下品な言葉過ぎたかな♥ ユナ君どん引きしたんじゃない……♥

ハムッ♥

「おお♥ おおほお♥ またまたおフェラ〜〜〜♥♥♥♥ キンタママッサージしながらのぬっほぬっほおフェラ〜〜♥ しゅきい、だいしゅきいいいい♥♥♥♥ 男の子にしか出来ない力強い吸引力♥ 確かな実績♥ 確かなパフォーマンス♥ ひょっとこ口で吸い付いて、お口の中で舌がフル活用♥ あ♥ おっほ♥ チンポの輪郭全部リサーチしてくる♥」

きんたまにくを両方の手でぎゅうぎゅう握られながらの逆フェラ♥ 先走りがどぶどぶ溢れるの解るのお♥♥♥♥ 乱暴にされてちんぽ服従しちゃってる♥

「ぶはっ♥ い、いいの、マイカさん♥ ミルクサーバーになっていいの♥ 僕、二十四時間ちんぽに吸い付いちゃうよ……♥ 僕個人の何時でも24時間ザーメンドリンクバーになっていいの♥♥♥♥」

「しよ、所有権お渡しします〜〜♥ マイカのちんぽは葉月ユナ様に無料で♥ 0円で♥ 法的手続きの必要も無くお渡ししますから♥ ど、どこでもおしゃぶり、おしゃぶりし放題！♥ チンポバーゲンオールシーズン開催中！♥」

い、言ってる事自分でも頭悪すぎるわよお……♥ セリフ全部、脳じゃなくてチンポから出ちゃってる
♥ チンポで脳みそにデバフかかって、体がぶるぶる震えて、おっぱいも震えて♥
……あ、あれ？
……お手々離れた、キンタマが解放されると、嬉しさより寂しさが……。

「ふえ？ ユ、ユナ君？」

じゅるるるるるるるっ！ ♥

「んひiiiiiiiiiiiiii！？ ほ、本気フェラきたあ！？」
「ぢゅるっ♥ じゅるるっ♥ ずぞぞっ♥ じゅぶっ♥」



「あ……へああ……♥ そ、そんな、美味しそうに、しゃぶってえ〜〜♥ お、お、おとおおっ！
♥」

凄いえっちな水音たててしゃぶってる！♥ かわいい顔おちんぽで歪めてじゅぼじゅぼしてる！♥
か、かわいい、エロい、スケベええええ〜〜♥♥♥
もっと、もっとお……！♥

「あああ！♥ ひゃあ♥ お、し、幸せなの〜〜♥ かわいい彼氏にドスケベおちんぽしゃぶっても
らって幸せしゅぎるのお〜〜♥」

ユナ君は一度口を離した♥

「だったら射精して♥ ううん、射精せ！♥ エロいスケベザーメン僕にゴクゴクさせるの♥」

そう言ったらまたおちんぽしゃぶるリブート♥ じゅっぼじゅっぼ私のお嬢様わがままおちんぽしゃ
ぶりまくりいい♥♥♥

「あああ〜〜！！♥♥♥ おねだりでなく命令形！♥ ちんぽ強請りの酷い人お〜♥♥♥ 搾取さ
れるう♥ チンポミルク強奪犯に、マイカのスケベザーメンご馳走しちゃう！♥ `お♥ でで射精る
だダメ` お♥ あ♥」

んおお♥ し、舌出ちゃう、ダメ、限界♥♥♥

「お お お お お お お お お お お！！！！♥♥♥♥♥♥」
「ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん！！！！♥♥♥♥♥♥」

「全然平気、ふふ、うふふ♥」

私はユナ君を抱きしめて、ほっぺたにほっぺた、ちんぽにはちんぽ、きんたまにはきんたまを、ぐりぐり擦りつけちゃう♥♥♥ はあ男の子なのにいい匂いする……♥

「はあ～……好き……♥ ……私の精液、ザーメン、タンパク質になって、ユナ君の栄養として摂取されて、体の一部になっちゃうのよね……♥」

「そのセリフ何度も聞くけど、そういうの、好きなの？」

「好き♥ 大好き♥ 自分のおちんぽ汁がかっこかわいいユナ君の一部になるのすごい変態的だし、な、なんか愛が伝わっている気もするのよ♥ ……ユナ君はいやかしら？」

「い、いやじゃないかも……♥ 自分の細胞が、マイカさんの精液で生産される。それって、二十四時間マイカさんにザーメン漬けにされてるって事だよな？ いつでもマイカさんを身近に感じられて嬉しい……♥」

「え、え、えええ～～～♥♥♥」

「顔、赤いよ、マイカさん？」

「ユ、ユナ君のセリフが変態過ぎる所為よ！ うう、彼氏として全部揃った優良物件生徒会長なのに、こんなちんぽこ娘と付き合ってくれてるの、本当、夢みたい……♥」

「それはこっちの台詞だけど……♥」

そう、本当に夢みたい。

男の子にはモテたけど、男の子のお尻好き、なんて性癖の所為で、まともに男の子と恋愛なんか出来なかったのに、ユナ君と出会った事で、夢みたいな生活が始まった。

……ん？ ユナ君、もじもじしてるけど、……もしかして♥

「……ユナ君、もしかして、お尻疼いちゃってるのかしら？」

「う、うん……♥ ……あの日の事思い出したら♥」

「あの日……♥」

ユナ君に当たってる私のおちんぽが、ビクン、と跳ねる♥ そしたらユナ君は私から体を離して、あの日みたいに、仰向けに転がって、くばぁっとオスマンコを私に晒して……♥

「キンタマミルク強盗してすみませんでした……♥ 今度は……僕のおしりまんこ……、マ、マイカさんのおちんぽでえ……奪ってください……♥」

おねだりされた瞬間、プツンと私の何かが切れた♥

「好きーーーーっ!♥」

「んっ!♥ ん、んう~~~~っ!♥♥♥」

気づいたら私はユナ君に飛びついて、
キスをしながら私のおちんぽを彼のお尻に……♥

第二話 二人の秘密♥

これはユナ君と私が、結ばれた時の話。

結ばれるというのは、えっと、色んな意味で……♥ 具体的には、おちんぽをお尻に……♥

こほん！

ともかくある日のお昼休み。その前日風邪で休んだ私が、同じクラスのユナ君の隣で、ノートを見せてもらっていると。

「マイカさんとユナって付き合ってるのか？」

「え？」

「え？」

ユナ君の友達に、突然そんな事を言われて、二人して驚いた。

私の顔は真っ赤になる。

「あ、私も気になってた。マイカ、ユナ君の話すっごいしてるよね」

私の友達も会話に参加してきた。どんどん、人数が増えてくる。

「い、いきなり何なの！？ 葉月君と私、そんな関係じゃないわよ」

「でも、今も仲良くしてたし」

「これは、午後からの授業の復習、手伝ってもらってただけ！ ……は、葉月君に失礼でしょ？ 私なんかじゃ釣り合わない」

「いや多分、この学園で、マイカさんに釣り合うのユナくらいだと思う」

「葉月君に釣り合うのもマイカだけよ、それぞれのファンには申し訳ないけど」

この学園で私達それぞれが、そういう目で見られているのは知っている。

だけど、私達二人が付き合ってるとか、そんな事言われたのは初めてだった。

「え、え～と～……」

ドキドキしながら、隣の葉月君を見る。

バレバレかもしれないけど、私は、葉月ユナ君の事が大好き。

学園の王子様みたいな彼、私にも優しくしてくれる。私が財閥のお嬢様でも、他の女の子と同じよ

うに扱ってくれる。出来るなら本当に付き合いたい。

……でも私には、彼と付き合えない理由があるわ。他に許嫁がいるとかそんな理由ではなく……。

「あ……あの僕は……」

顔を赤くしている葉月君。

「桔梗院さんは素敵な女性だと思ってる、だけど、付き合ってるとかそんなんじゃ」

「いいじゃん、折角だから付き合っちゃえよ」

「ご、ごめん、僕」

そこで葉月君は顔を伏せた。

「女の子と付き合えない理由があるから……」

「え……」

そんな理由があるなんて知って、私はビックリした。

「そ、そうか」

「い、家の事情？ ……ご、ごめん、なんでもないよ、言わなくていいから」

ユナ君の言葉に、クラスメイトもそれ以上突っ込まなかった。

……付き合えない理由。

それがなんなのか、最後まで葉月君は誰にも言わなかったけど、

私も同じだ。

私も葉月君と付き合えない理由がある。

それは……。



「お` お` お` ♥ `んほおおおおおお♥♥♥♥」

ちんぽマラ扱き〜〜♥♥♥♥ 誰も来ない旧校舎の狭くて暗い女子便所個室で、お一人センズリショー

開演中♥♥♥♥

あ、でも声は出しちゃだめえ……♥♥ 誰も来ないとは言っても、誰かに見られちゃう可能性はある♥♥
スニーキングチンポミッション♥♥♥♥

ごめんなさい私ちんぽ女なんです♥♥ 今日も葉月君の横顔思い出してスケベオナニーしてるエロチンポメスなんです〜〜♥♥♥♥♥♥

「葉月君♥ 葉月く〜ん……♥♥」

妄想の中で、葉月君の細い指が、私のキンタマを情熱的に掴む♥♥ ひゃあん♥♥ 私のプリタマ、そんなに甘やかされたらこってり濃厚ミルク過剰に生産しちゃうわ♥♥ ぴゅるぴゅるカウパー汁漏れちゃう♥♥
ああ♥♥ きっと葉月君にスケベバレしちゃうの……♥♥ こんなにちんぽ膨らませていけない子だね♥♥
って囁かれて、そして、

「だ、ダメ、スケベマンコ見せちゃだめ♥♥ めえだよ、めっ♥♥ 男の子がそんなピンクアナル見せつけちゃいけません♥♥」

妄想の中では目の前の洋式便器に座って、私の為に！♥♥ アナル大開放！♥♥
い、いれちゃう♥♥ 挿れる挿れる挿れる挿れる！♥♥ ……あ♥♥

「んんんんんあああああああゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ ♥♥♥♥♥♥♥♥」

びゅううううううううう♥♥ どびゅ♥♥
びゅる♥♥ びびゅうう♥♥

で、出ちゃったあ……♥♥ 妄想の葉月君マンコを貫通して〜……♥♥ 便器にたっぷりザー汁捨てえ……♥♥
♥♥ 腰の感覚が抜けながら、尿道擦りながら精液通り抜けていくの好き〜……♥♥♥♥♥♥
……ふう。

「……う〜」

凄い気持ちよかったけど、射精した後の賢者タイムでは、いつも涙ぐんでしまう。
葉月君の恋人になりたい。でも、私本当はお嬢様でもなんでもない。今も葉月君をレイプする事考えてセンズリぶっこく、妄想犯罪メスチンポ女だから……。
自分のおっぱいを制服の上からまさぐる。葉月君と付き合うなら、この女の子の部分だけがあればいい。
でも、おちんぽを捨てるなんて絶対出来ない……。

「……寂しいわ」

虚しい気分で私は、トイレの排水レバーをひっぱって、自分の精液を処理する。葉月君に種付けしたかったザーメンが、渦を巻いて流れて行って……。

「……あれ」

流 れ な い 。

いつもより興奮したせいか、粘度と量が多いザーメンが流れなくて、私は泣きそうな顔になりながら、必死でレバーを何度も動かした。



「はあ～～～……なんとかなって良かった……」

なんとかザーメンを流し終えた私は、鞆を持って本校舎に戻ってきた。

……本当は、もう何の用事も無いし、家に電話して迎えの車を呼んで、帰っていいんだけど……。

「……葉月君の顔見てから帰ろうかしら」

ちょっと顔を赤くして、私は、生徒会室まで足を運ぶ。会う理由は……、今日ノートを貸してもらった事でいいか。さっき金玉汁は抜いたから、不意ボッキはしないと思うし。

「失礼します」

ドアを叩いた後、そう言って、扉を開ける。

「アレ??？」

葉月君が居ない。扉の鍵は開いてたし、トイレにでも行ってるのかしら。

どうしよう？ ……少しだけソファに座って、待たせてもらおうかしら。……ん？

「あれって、漫画？」

生徒会長の机の上に、なんかやたら薄い本が置かれていた。同人誌って奴だと思うけど……。
私は、なんとなく、その同人誌が何かを確認した。
私は絶句した。

〈逆アナル転生♥ 勇者になったはずの俺が異世界でふたなり姫様の女装肉便器になるなんて♥〉

「え……え……」

私は思わずタイトルを二度見した。有名ソシャゲの主人公が、作中のヒロインに、おチンポぶちこまれてる表紙絵があった。

なんでお嬢様の私がこのソシャゲを知ってるかという、主人公が葉月君に似ていて、ヒロインが私に似ているからだだった。

……で、な、なんでそんな同人誌が、学校の、しかも生徒会室に？

「……ゴクリ」

私は生唾を飲みながら、同人誌の中身を開いた。

〈だ、駄目だよ……♥ 俺男なのに女の子になっちゃう……♥〉

〈女の子になって構いませんわ♥ 私の嫁にしてさしあげますから♥〉

「う、うひゃあ……♥」

そこにはソシャゲで、舞踏会に潜入する為に主人公がした、女装姿の主人公を、原作にはない、ふたなりおちんぽでハメまくるヒロインが居た。

見た目は似ていても、口調は私達とはちょっと違う♥

でも、私に似てるヒロインが、えぐいちんぽで、葉月君に似た主人公のお尻まんこを掘りまくってる♥

「え、えっち過ぎる……♥ このマンガ……♥ さっき射精したばかりなのにちんぽ勃起してきちゃう……♥」

便器を詰まらせるほどザーメンを出したおちんぽが、スカートを盛り上げるくらい勃起しちゃう♥
もうここでオナニーしちゃおうか、そう思った時。

タタタタタタタッ！

「ひっ！」

生徒会長室の外から、駆け足が聞こえた！ やばい、どこかに隠れなきゃ！
私は慌てて、生徒会長室にあった、衝立の奥に身を隠した。
すぐにドアが開く音がした。

「……良かった、誰も居ない」

衝立から、バレないように葉月君をチェックする。
落ち着いた葉月君は、後ろ手で、会長室の扉を閉める。……そして、窓にもカーテンをかけてから、机の上の同人誌に向き直った
葉月君の位置は、私が隠れてる衝立より前だ。私に後ろ姿をみせている。

(……まさか)

いやいや、あれが葉月君の私物なんて有り得ない。きっと誰かのを没収したか、廊下とかで拾った物を処理に困って持ってきただけだ。そうに決まってる。……そう自分に言い聞かせていた私だったが。

「……駄目、我慢出来ない」

(え……ええ……!?)

葉月君が、制服のストレッチパンツを脱ぎだした！ 男の子なのに、全く毛が生えてない下半身を、私は真っ赤な顔でガン見しちゃう。妄想していた男の子のお尻が、同じ部屋の同じ空間にある。それだけで、勃起がおさまらない。

(ま、まさか、オナニーしちゃうの!? 葉月君が!? 生徒会長なのに!? しかもそんな本をおかずに!?)

混乱する私だったが、私の予想以上の事を、葉月君はし始めた。
……ここからじゃ見えないけど、何かゴソゴソしてる。そうしてから、
葉月君は、その手を前じゃなくて、後ろに回した。

ワキュ❤️

「……え」

思わず声が漏れた。だけど、葉月君は私に気付かずに、弄り続けている。
な、何をとって……。

(う……嘘……嘘……まさか……)

葉月君は、自分のお尻を弄っていた。

(~~~~~っっっ♥♥♥)

め、目の前で起きている事が理解出来ない♥ 葉月君が、逆アナル同人誌で、お尻オナニーしてる♥

「ん……んう……んう~~~~♥」

(は、はわ、はわわわわ♥♥♥)

やだ……♥ 男の子の生アナニーなんて初めて見る♥ 成績優秀スポーツ万能な生徒会長が、学校で逆アナル同人誌でアナニーしてる♥

大好きな人のこんな姿を見せられて、勃起を我慢なんて出来るはずがない……♥

でも、オナニーはしちゃ駄目……♥ そんな事したらバレちゃうわ……♥ 大好きな葉月君に、学校でチンポを勃起させてる変態だってバレちゃう♥ ……あれ？ でも葉月君も、学校でアナニーする変態よね？

(だ、だったら、バレてもいいんじゃ……)

馬鹿な考えで、思わず衝立から、身を乗り出そうとした時だった。

「……す……好きい♥」

「……え？」

「桔梗院さん……大好きい……♥」

突然、私の名前が出てきた。

え、嘘。まさか……。

「桔梗院さんのおちんぼ……いれてえ……！♥」

わ、私のおちんぽ想像して、アナニーしてる！？

(嘘、嘘、そんな……♥)

ブルンッ♥

……気がついたら私はちんぽを取りだして、

(そんなあ~~~~♥)

せんずり開始しちゃう♥ くちゆくちゅアナニーサウンドを聞きながら、おちんぽコキコキしちゃう♥

「はあ、はあ、はあ♥」

(ひゃあ、ひゃあ、ひゃあああ♥)

おちんちんシコシコする手が止まらないの♥ 大好きな男の子が私のちんぽを想像して、お尻アナニーしてるんだもん♥ こんな我慢出来ない、すぐ出ちゃう♥

「イ……イキそうだよ……種付けして、赤ちゃん孕ませてえ……」

(ひいひい！♥ そんな、えっちな言葉ダメよ！♥♥♥)

そんな下品な言葉聞いたら、私い♥

あ、

「イク……！ あ、ああああっ！♥♥♥」

「ひゃあああああああ！♥♥♥」

どびゅるるるるるうううう！♥

ぼびゅううう！♥♥

しゃ、射精えええ♥ 射精開始♥ 葉月君のリアルアナルでドスケベオナニー射精いい♥

私のちんぽ暴れちゃうの♥ 好き好き大好きって、葉月君の肛門を求めるように上下左右にぶんぶん動いて、ちんぽ汁撒き散らして♥

……そしたら、

ガワンッ!

「……え？」

「……あ」

……私は勃起チンポで、衝立を倒してしまった。

振り返った葉月君は、私の姿を見る。

スカートからでかすぎる勃起チンポを晒して、射精したザーメンで水だまりを作った、私の姿を見た。
少しの沈黙の後に、

『……わあああああああああっ!』

二人の絶叫が、生徒会長室に木霊した。

第三話 おちんぽ初体験♥ 処女の処童貞喪失♥

翌日の土曜日。

私は、葉月君の部屋に居た。

葉月君の家族は出かけていて、大好きな人と一つ屋根の下という状況だ。

ずっとずっと緊張している、そして、

私のおちんぽも緊張、というか勃起しっぱなしだった。

「はぁ……はぁ……♥ 葉月君のお尻……♥」

「は、恥ずかしいよ、桔梗院さん……」

今がどういう状況かというと、私は床に、葉月君はベッドに座っている。

仰向けで足を拡げてお尻の下に枕をおいて、ちっちゃなおちんぽの形をしたバイブを、お尻の穴にハマっている。

昨日、私達は、お互いの気持ちを確認め合った。

私が葉月君を好きだった事と、ふたなりちんぽが原因で彼女になる事を諦めていた事。

そして、葉月君も私を好きだった事と、ふたなりちんぽが好きで彼氏になる事を諦めていた事。

エロ同人だったら、そこからなしくずしにセックスという流れになりそうだけど、私達は全く気持ちを整理出来なかった。だから、一度お互い家に帰る事にした。

嬉しさよりも驚きの方が凄かった。

……だけど、昨日の夜は。

「ずっと……♥ ずっとおちんぽ勃起させていたんだから♥ 葉月君が私の事好きって知って、嬉しかったから♥ でも、射精は我慢したのよ♥ 少しでも多く、葉月君の中に中出ししたかったから……♥」

「ぼ……僕も……桔梗院さんの事想像してずっとアナニーしてた……♥」

「う、嬉しい……♥」

大好きな人が、ちんぽ中毒だなんて、凄い奇跡……♥

嬉しくて涙が、ちんぽから先走りえっち汁が流れちゃう……♥

「で、でも、いいの？ 桔梗院さんの童貞もらっちゃっていいの？ 男の子相手に、それも、処女のまま……」

「いい、いい♥ 葉月君の処女もらえるなら、一生処女で構わないわ♥ は、葉月君こそ、男の子なのに……」

「ぼ、僕も、……一生童貞でいいから、処女奪って欲しい♥ ……桔梗院さんの精液便所になりたい♥」
「~~~~~っ♥♥♥」

私は我慢出来ず、ベッドの上の葉月君に飛びかかった♥

「ひゃあ♥」

そのまま唇を奪う♥ 舌を絡ませて、二人でエロエロなディープキスしちゃう♥ ファーストキスのはずなのに、ロマンチックさも何もない下品なキス♥ そのまま、私よりちょっとだけ小さいおちんぽに、自分のおボッキ擦りつけちゃう♥

「好き♥ 好き♥ ずっと好きだったあ♥ 優しくしてくれるのが嬉しくて、いつもおちんぽ勃起させてた♥」

「ぼ、僕も、桔梗院さんがふたなりだったらって、お尻の穴いつもうずかせて♥ ……んっ♥」

ズボンッ

「え、ええええええ~~~~~♥♥♥」

お尻の方から、空気が漏れるような音をしたと思ったら、葉月君、お尻の力だけでおちんぽディルド外に出しちゃってる♥ 私はキスをやめて、また床におりた。ぽっかりアナルが、ゆっくり閉じて、……オモチャで遊びすぎの縦割れおまんこになってる♥

エ、エロい……♥ 処女なのにビッチなおまんこなんて、国宝に指定すべきだよお……♥

「ほ、本当はお尻って、一ヶ月くらい開発しないと気持ちよくないはずよ♥ どれだけ一人で遊んできたの♥」

「い……言わないで♥ いじめないで♥」

「学校では真面目な生徒会長の癖に、お尻は不良過ぎるなんて~~~~♥」

すぐにでも挿入したい気持ちをおさえながら、私は立ち上がってシャツのボタンを外して、ぶるんばるん♥ って、おっぱいを外に出した♥ おっきすぎるおっぱいはコンプレックスだったけど、……葉月君が顔を真っ赤にしながら、ガン見してきたから、嬉しく感じる♥

一晩中勃起して、家に来るまでも勃起してたちんぽを、葉月君のお尻おまんこに擦りつける♥ もう擦ってるだけで射精しそうになっちゃう♥ 駄目、これ、入れた瞬間射精しちゃう奴よ……♥

「は……葉月君……いれちゃうわよ……♥ 私の童貞もらって……♥」

「……あ、あの、桔梗院さん」

「……どうしたの？」

顔を赤くして、目を反らしていた葉月君だったけど、こっちに向き直ると、両手を拡げて、うっとりとした顔で、

「……ユナ君って、名前で呼んで欲しいです♥」

「~~~~~っ♥♥♥」

凄い乙女チックな事を言ってきた葉月君、ううん、ユナ君に我慢出来ず、

「ユナ君っ♥♥♥♥♥」

名前を呼びながら、思いっきりちんぽをケツマンコにぶちこんだ!!!

ズニョウ!

「しゅ、しゅごい♥ おちんぼしゅごい♥ 処女けつまんこに童貞ちんぽはめられるのしゅごすぎい〜
〜……♥」

女の子みたいなかわいい声で、えげつないセリフ喋ってる♥ 全然、生徒会長の凜々しさなんかない♥
女装なんかしなくても、このエロ顔だけで、皆からメス認定されちゃう。……それにしても、本当に男の
子って、おちんぽいれたら、体びくびくさせて脳イキまでしちゃうのね♥

ううん、ユナ君が特別なのかな♥ おちんぽ好きの才能MAXなのかしら♥
メスイキで震えちゃってるユナ君に、おっきなおっぱいを擦りつけながら抱きしめる♥

「このままじっとしてあげるわ……♥」

「あ……ふあ……♥」

「大丈夫……私のおちんぽは逃げないから……♥ ユナ君がばこばこされたくになったら、いつでも腰動か
してあげるから……♥」

「~~~~~っ♥♥♥」

ユナ君は無言で、甘えるように私を抱きしめてきた♥
暫くしてから、ユナ君の方から、軽く腰を揺すって……♥

「ぼ……僕、こんな変態だから……お尻におちんぽが欲しい淫乱だから……♥ 桔梗院さんと幸せになん
て絶対なれないって思ってたから♥」

「うん♥ うん♥」

「本当は、生徒会長の仕事も大変で……♥ 毎日不安いっぱい……♥ それをごまかすようにお尻でオ
ナニーしてたから♥」

「そうなの♥ 大丈夫♥ これからは私がユナ君のお尻毎日パコパコしてあげる♥」

「い……いいの……? 本当に……?」

「本当に♥ ……と、というか、私だってユナ君と同じくらい変態だった訳だし、お互い様よ♥」

「……桔梗院さん」

「……マイカって呼んでくれる?」

「……マ、マイカさん♥」

「な〜に♥」

「お尻セックスして……♥ 赤ちゃん出来ちゃうまで種付けして……♥」

「♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

私は大喜びで、ユナ君のケツマンコに腰を振り始める♥

『ひゃんっ♡』

前後お♡ するだけで、お尻の穴がぬぷぬぷ～♡ って♡ おちんぼ絡みついてくる♡

「あん♡ ああん♡ お尻凄い♡ 童貞男の子のお尻すごい♡ おっほお♡」

「ひゃあああ♡ ど、童貞なのに僕、童貞ちんぽでファックされて♡♡♡ エ、エロすぎるよお♡」

ああ♡ ザーメン塗れのおけつのお肉が凄いうねって、私のちんぽしゃぶってくる♡ 涎を垂らしながら逆アナルセックスしちゃう♡

前立腺の位置を確かめて、そこを擦るように腰をあげて、ゴリゴリ♡ って刺激する♡ その都度ユナ君が、あひい♡ ってエロ声あげるのが凄いかわいい♡ 学園の王子様がおちんぽでひんひん喘いでる♡ ギャップ萌えていうのかしら♡ エロい♡ 清楚な生徒会長がちんぽ中毒ビッチ男の子だなんて♡ 卑怯エロすぎる♡

「きもちいいわあ……♡ ユナ君のおまんこ最高よお……♡」

「マ、マイカさんのおちんちんも♡ ひゃあっ♡」

「はあ♡ 駄目♡ こんなもたない♡ い、いきそう♡ 中毒なる♡ 桔梗院家の跡取り娘が、男の子のオスマンコ中毒になっちゃうううう♡ んほお♡ んひ♡ スキャンダル決定♡ ふたなりちんぽ令嬢と生徒会長の秘密の逆アナル恋愛♡ 記者会見で公開セックスしちゃう～～～♡」

ズクン！ グクン！ ジュボ！ グプン！ グクッ！ ニュクッ！

おっぱいとツインテールと金玉をぶるんぶるん揺らしながら、私はがむしゃらに腰を振りまくる♡ ユナ君の顔はアへりっぱなしで、きっと、私の顔も同じくらい酷い事になってる♡

男の子と逆アナルセックスするだけで気持ちいいのに、それがしかも大好きな人♡

「幸せ♡ 幸せっくすう♡ お尻の中でおちんぽがびゅるびゅるするハピネスセックス♡ の、脳がイカれる♡ おボッキちんぽが尻の中でフルチャージする♡ こんな無理♡ 無理無理の無理♡ ユナ君のおしりマンコ優秀過ぎる♡ 一発でメスチンポをイカレチンポにする名ちんぽ量産機♡ 世界中のちんぽこ女が群がる♡」

「や、やだあ♡ おちんぽ、マイカさんのじゃないと嫌だあ♡ 僕のおしりマイカさん専用にしてえ♡」

「ふえ！？ ひゃ、だ、駄目よユナ君♡ こんなチート級の世界スケベ遺産を独占していいなんて言われたら、あああああ腰とまんないとまんないちんぽ凄いいおすまんこ凄いいあへあひゃんひゃああ♡♡♡♡ おっほお♡ んひい♡」

告白されセックスだめえ♥ 誓う♥ 誓っちゃう♥ 指輪にリングをはめる代わりに、肛門にちんぽをハメハメするの♥

「ユナ君っ♥ ユナ君は私の事お嫁さんにしたい？ それとも私のお嫁さんになりたい？」

「ど……どっちもお……♥ どっちもなりたいたい……♥」

「よ……欲張りい♥ お仕置き♥ お仕置き決定です♥ ケツマンコでおちんぽを惑わす生徒会長は種付けアクメの刑です♥ いっちゃえ♥ いけ♥ いけえ♥」

知らず知らずのうちに乱暴な口調になって、ともかく、お尻の穴にちんぽを何度も叩きつけて♥

ユナ君、思いっきり抱きついてきた♥ ちんぽが一番奥に入る♥

……だめ♥

「ああああああ射精る♥ 射精まくる♥ ちんぽからエロエロザーメン男の子のお尻に提供しちゃう♥ んほおおおおおおおおお` お` お` お` お` お` お` お` っ♥♥♥♥♥」



どびゅるららららららららららら♥ ぼびゅ♥
びゅるる♥ びゅびゅ♥ どびゅら♥

「ひゃあああああああっ♥ 中出し♥ 精液きた♥ ア、アクメ、しゆる♥ んほおおおおおっ♥」
「にゃあああ♥ 注ぐ♥ 注いじゃう♥ 男の子孕ませるくらいこくまるメスチンポ汁直腸に生きてま
まお届けえええ♥ おほおおおおお♥♥♥」

お尻にちんぽ吸い取られる♥ 私の金玉からっぽにするかのように、ケツ穴がキュイキュイ締め付けてく
る♥

さ、最高だよお……♥ オスマンコとのセックス♥

「ひゃあ、ひゃああああ……♥ ……♥」

「はひ、んひ……♥ お` お……あ` あ……♥」

……しちゃった♥ 大好きな人とのラブラブ逆アナルセックスしちゃった♥
幸せ～～……♥

「マイカ……しゃあん……♥」

「えへ……えへへへへ……♥」

私の名前を呼んでくれたユナ君に、にやにやしてしまう。幸せに蕩けきった顔のまま、私はユナ君にキスをした♥

この日から、私達は、学園を代表するカップルになって、
……そして裏では、ド変態逆アナル恋人になったのでした♥

第四話 愛情とえっちたっぷり手作り弁当♥

葉月ユナと付き合い初めて、一ヶ月が過ぎた。

今じゃ学園公認のカップルになった私達は、色んな所で目立ってしまう。嬉しいけれど、ちょっと恥ずかしい。

……でも、私達が付き合ってる事が、知られるのは問題なかったり。……バレたら大変な事は、

「ユナ君♥ おほっ♥ おしゃぶり気持ちいい♥」

「んぐ♥ んうううううう～～♥♥」

放課後、人が減多に来ないトイレの個室で、男の子のユナ君に私のおちんぽしゃぶってもらってる姿は、絶対誰にも見せられない♥

あの日から毎日、ユナ君とおちんぽプレイしてる♥ お口まんこは勿論、お尻おまんこにもちんぽじゅぼじゅぼして、休日はいつも二人っきりでエッチしちゃっている♥

毎日……彼氏におちんぽハメハメ出来るなんて……夢みたい……♥

「おお♥ い！ ぐう！ スケベミルク射精まくる`う`う`う`う`う`う`♥」

「んふううう♥」

ぼびゅぼびゅぼびゅううう♥ びゅるん♥ どびゅん♥ びゅびゅん♥

口の中に、ゼリーどころかプリンみたいにプリプリな、スケベなおちんぽミルクをご馳走しちゃう。

で、ユナ君はそれを飲んだだけで、どびゅどびゅザーメンお漏らし……♥ 制服のパンツをどろどろにしちゃってるの

「ま……またお漏らしをしたのユナ君ったら♥ おちんぽ汁飲んだだけで射精なんて、エッチ過ぎるわ♥」

「だ……大丈夫♥ 着替え持ってきてるから……♥」

「ザーメンお漏らし前提でおちんぽしゃぶってくるのね……♥ かわいい♥ 変態♥ 大好き♥」

「あふ……♥」

嬉しそうにそんな事言う変態さんに、私のイキたておちんぽをグリグリ擦りつけちゃう♥ すると、私のおっきな金玉にかわいい顔を埋めてくる♥ ああ、彼氏の顔にキンタマスマルマーキングしちゃう、誰にも渡さないように、私だけのものにしたくって、ムチムチキンタマでズリズリって♥

(……あ、そうだ)

……ちょっと、怖いけど、言っちゃおうかな。

「……あ、あの、ユナ君。一つお願いがあるのよ」

「……お願い？」

私がそう言うと、ユナ君は、金玉とおちんぽにほおずりしながら私を見上げる。うう、言うのちょっと怖いけど、勇気を出して……。

「こ……今週の金曜日ね……私が作ったお弁当食べて欲しいんだけど……」

「……え？ 手作りお弁当？ ……お願いも何も、そんなの、僕からお願いしたいくらいだけど」

うん、その反応は解る。でも……。

「え……ええとでも……あの……」

「……マイカさん？」

不思議そうな顔をしている、ああ、早く言わないと……！

私が、ユナ君に食べて貰いたいのは……！

「私の……！ ザーメンで出来たお弁当を食べて欲しいのよ……！」

「……へ？」

私の爆弾発言に、ユナ君は、暫く口をあぐり開けていた。



と、撮れてるかしら♥ よし、スマホで今から料理実況するわね♥

お弁当を作る約束をしたのが水曜日で、今日は金曜日の朝6：00！ お父様やお母様は勿論、使用人も旅行に出かけたから、キッチンには私一人だけ……。この日の為にオナ禁したから、材料の金玉ミルクは充分……。ああ、ドキドキしてきた～……♥ ユナ君に、私の手作りザーメン弁当作っちゃうの♥

わ、私！ 子供の頃から夢だったの！ ……好きになった人に、愛情たっぷりのおちんぽミルクで出来た、ごはん食べてもらうの♥

……引いちゃう？ 引いちゃうわよね？ ごめんなさい。……でも、なんだかんだで、食べたいって言

ってくれたユナ君、大好きよ♥

そ、それじゃ最初はおにぎりね♥ これは簡単、愛情こめてにぎるだけ♥ 中身は梅干しに、鮭に、ツナマヨ♥

次にオムレツを作るわ。ボウルに卵を二個、三個、いれてかきまぜる。……そ、そして、ここで、ちんぽお〜♥ 朝からボッキしまくってる、私のおちんぽ♥ オムレツに欠かせないミルクの代わりに、ザーメンを使っちゃうの♥ こう、ボウルを床において、その上からおちんぽを扱いて♥ ひゃ、ら、卵液におちんぽ突っ込んだ♥ 大丈夫朝ちゃんとシャワーしてきたから〜♥ ユナ君は、洗ってない匂いの方が好きって、前言ってたけど、お料理は衛生が大事だから我慢して欲しいわ……♥

……んひ♥ ど、どう考えても、おちんぽで料理してる時点でアウト♥ 下手したらユナ君病気になっちゃう♥ けど止められないの♥ 卵液ちゃぽちゃぽさせながら、朝のマラ扱き止められない♥

んぽ♥ 射精る♥ 卵にいっぱい精液出ちゃう♥♥♥♥ ♥んひゃああ♥♥♥♥

どびゅん♥ びゅるるうううう♥

ああ出てる出てるう〜〜♥♥♥♥ 卵にいっぱいザーメン生クリームう……♥ うう、卵の量よりも多いかも♥ でもこれをしっかり泡立て器で混ぜて……♥ や、焼く前からヤバイ匂いしてるわ♥ 大丈夫♥ ユナ君が食べれなかったら私が責任もって食べるから♥

ちっちゃなフライパンに♥ バターをたっぷり溶かして♥ ザーメン入り卵液をいれて♥

や♥ 焼けてる♥ ユナ君に食べて貰う為にザーメンオムレツが焼けちゃってる♥ 良い匂いの中にエグい匂いが混ざってる♥

で……出来たわあ〜……♥♥♥♥ これをこうしてここにいれて♥ ふふ♥ 次もどんどん作るわね♥



お昼休み、学校の屋上、誰も入ってこれないように鍵をかけた状態で、スマホで私の料理風景を見たユナ君は、

「はっきり言って頭おかしい」

「ええ！」

思った以上に辛辣な言葉を投げてきた。ガーン！ って涙目になる私。

「なんで！ なんでよ！ ユナ君いつも私のおちんぽ汁美味しそうに飲んでくれてるじゃない！」

「それとこれとは話が別だよ!? りよ、料理で食べるのは、なんか違うというか……。精液はおちんぼとセットじゃないと寂しいというか……」

「ひ……酷いわ……、一生懸命作ってきたのにい……!」

まさか、恋人になって初めての喧嘩が、精液は飲めるけど食ザーは無理かどうかになるなんて……! うう、確かにHなSNSでも、話題になったりする喧嘩案件だけとお……。

……くすくすんと泣きそうになった私に、ユナ君が言った。

「……食べるよ」

「……え?」

「早起きして作ってきてくれたんだし……それでマイカさんが喜ぶなら……。……の、残しちゃったら、ごめんね」

「!♥」

私はもう、ツインテールがパタパタしそうなくらい喜んだ。ユナ君の気が変わらない内に、レジヤースートをひろげて、二段重ねのお弁当箱を開き、オムレツ、ハンバーグ、サラダといった、彩り豊かなお弁当をひろげた。……見た目は凄く美味しそうに出来たけど、この料理に全部私のふたなりミルクが入ってるのよね♥

ああもう、考えただけで、ちんぼ大きくなっちゃう。

……ふふ♥

「そ、それじゃいただきます。……って!？」

ユナ君が驚いた理由は、突然私がおんもにおちんぼを取りだしたから♥

はあ〜〜ん♥ 屋上の青空の下で、ドスケベセズリするだけで興奮しちゃう♥

……これから、もっと最低な事しちゃうの。

「ま……待って、ユナ君♥ 最後の仕上げに……ぶっかけるの……♥ 私のチンポミルク♥」

「え……嘘……」

嘘じゃないの♥ かわいい彼氏の前で、下品な女ちんぼマラシゴキィ♥ あ、いく、いく、いくうん♥

「ああん♥」

どびゅう♥ ぼびゅびゅう♥

ユナ君の目の前で、私の手作りお弁当に、たっぷり白濁液ぶっかけちゃう。尿道から精液が抜ける感触に呆けながら、お弁当に精液をかけていると、ユナ君は苦笑いをしていた。……私はにこっと微笑んで、ユナ君の後ろに回って、

「ひゃっ!？」

ユナ君のパンツをずらして、お尻を丸出しにしちゃう♥

「……ごはん中、椅子になってあげるわ♥ おちんぼ無しだと寂しいんでしょ♥」

「……う……うん♥」

私のぴっこんぴっこん揺れるおちんぼを、ユナ君のかわいいお尻の谷間に押し付けて、ずりずりしたあと……先っぽをお尻の穴にあてがって♥

「んほお♥ ひゃあああああ〜〜♥」

ずぶずぶとお尻におちんぼいれたら……♥ 聞こえるえっちな喘ぎ声♥

ああん、久しぶりの彼氏のお尻まんこお……♥ 気持ちいいし、安心しちゃうわ……♥

昨日ずっとおちんぼ寂しかったんだから、もっとおちんぼだいしゅきホールドしてえ……♥

「ふふ♥ 座り心地はいかがかしら♥」

「さ……最高……♥ 大好き……♥」

さっきまでの不安そうな顔から一転、ちんぼ大好きなメス男子顔♥

「それじゃ♥ このまま召し上がって♥」

促したら、ユナ君はまず、最初にオムレツに箸をつけた。どろっとしたザーメンがかかったそれを口に入れて、咀嚼しはじめる。もぐもぐと口を動かす様子はかわいらしいけど、口の中で精液がどろっと蕩けだしてると考えたら、興奮する♥

ユナ君、学校で食べちゃってる……♥ わ、私の本当に恥ずかしいおちんぼミルク料理♥ ああ、お尻の中のおちんぼ、ムクムクって大きくなっちゃう♥

「……お……美味しい♥」

「え？」

「美味しいと思っちゃいけないのに、美味しい♥ マイカさんのザーメン料理美味しい♥」

「♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

「んひい♥ ちょっと♥ おちんぼ♥ お尻の中で急に大きくなった♥」

「だってだって♥ 嬉しいんですもの♥ 子供の頃からの夢がかなったんだからあ～～♥♥」

「お……大げさだよお……♥」

大げさじゃないわよ♥ 優しくて素敵な彼氏に、手作りちんぼ作り弁当、食べてもらいたかったんだもの♥

オムレツの後は、サラダを食べてくれる♥ 新鮮な風味が、ザーメンのどろっとした味で台無しになってるんだらうな♥ 男の子が大好きなハンバーグも、きっと、私の精液で最低の味になってるんだ♥

でも……夢中になって食べてくれてる♥ おにぎりを頬張ってる顔は、本当に美味しそう♥

ユナ君はもう私のおちんぼミルク無しじゃ、生きていけない体になってるのよね♥ 毎日毎日私のこってりザーメン飲んでくれてるもの。

頭の中までちんぼ汁漬けになっちゃったのかしら……♥

……美味しそうに、精液ごはんもぐもぐごっくんしてるの見てたら、おちんちんイライラしてきたあ♥

「……ユ……ユナ君♥ 私我慢できなくなってきたわ♥」

「ふえ……♥ ……あ、セックスしたいんだ♥」

「え、ええ♥ うう……椅子にならなきゃいけないのに……ごはんの邪魔をしちゃいけないのに♥」

ダメよ、折角私のお弁当、美味しそうに食べてくれてるのに、勝手にセックスなんてマナー違反……。

「……えい♥」

「え、ひゃあああああ～～～♥♥♥♥」

ユナ君が、腰を振り始めた♥ お、おちんぼが入れたり抜けたりする感触、凄い良い!!!♥

「だ……駄目よユナ君♥ テーブルマナーに反するわ♥ おほお♥ 駄目♥ 食事にお尻おすまんこセックスなんて駄目♥ 禁止よ禁止♥」

「料理にザーメンかけてる方がおかしいよ♥ ほら♥ ほら♥」

「んひいひいゝゝゝゝゝ♥ ユナ君、正論言わないでえ～♥」

私も腰を振り始めちゃう♥ おちんぼとお尻の穴じゃ圧倒的にヒエラルキーはおちんぼが上だから、あつというまに主導権は私に移る、ユナ君は、女の子みたいに喘ぐ事しか出来なくなってる♥

第五話 女装メイドとふたなりお嬢様♥

[ごめんなさい、今日体調悪くて学校いけないわ]

登校時間に、ベッドの中からスマホで送ったチャットに、ユナ君はすぐ返信をくれた。

[大丈夫?]

[うん、大丈夫。今日相手できないかわりに、おちんぼの画像送るわね]

[え?]

次の瞬間、パジャマ姿で、笑顔でピースしながら、おちんぼごと写した自撮画像を、ドキドキしながら送っちゃう。……あ、これ癖になりそう、露出狂さんの気持ちがちょっとわかっちゃう♥

[ちょっと、何考えてるのマイカさん！ 僕登校中なんだけど!]

[一日中ユナ君が、私のちんぼ想像してくれたら嬉しいもの♥]

[最低……]

[え、ちょっとごめん、許して~!]

かわいい動物のスタンプで謝るけど、その間に、オチンポやキンタマの写真も送っちゃえて♥
……冷静に考えると、本当最低な事してる。熱に浮かされてとんでもない事しちゃった、けど、

(おちんぼ好きなユナ君なら、きっと喜んでくれてるはずだし、うん)

風邪なおったら、いっぱいユナ君におちんちん扱ってもらおうって、金玉をムラムラさせながら、お父様お手製のおかゆを食べた後、ベッドの中で眠りについた。



「マイカちゃん、大丈夫?」

「あ、おか」

「セリカちゃんって呼ぶの!」

……そう言って低い身長でぴよんぴよんと飛び跳ねる小さな女の子に、私は苦笑を浮かべるだけだった。

「それより、風邪の方は大丈夫？」

「うん、大分楽かなあ……というか調子いいくらい」

「ウィルス性の風邪じゃなかったかもだねー」

セリカちゃんはくるくる指を回して、ポニーテールも揺らした。

「と、いう事は、結構おちんぽムラムラしてるんじゃない？ ……彼氏の事考えて勃起しちゃってない？」

「わっ！？ な、何言ってるの！？」

「セリカちゃん安心したよお、マイカちゃんにあんなかわいい彼氏君が出来て。……今度、一緒におちんぽしない？」

「しない、しないから！ もう出てってよ～！」

「にゃはは、ごめんなさーい♥」

真っ赤な顔になる私に笑った後、セリカちゃんは部屋を出て行った。

……はあ、あれで私と血が繋がっているんだから、ビックリ。

「……」

だ、だめ、あんな事言われたら、本当に甘勃ちしてきたわ……♥

オナニーしたいけど寝て耐えよう……、がまんがまん……♥ 快復どっぴゅんミルクはユナ君に飲ませてあげたいから……♥

♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「36度2分……」

夕方。学校はもう終わっている時間。

朝は38度近くまであった熱が、平熱に下がった事を、体温計で確認して、私は安心すると同時に、体がむらむらするのを耐えていた。

「いつも朝昼晩って、ユナ君におちんぽ処理してもらってたのよね……。うう、キンタマが疼く～……♥」

パジャマの上から自分のキンタマを揉み回して、自分を慰める。ユナ君とビデオチャットで、相互オナー出来ないかな〜、と、ユナ君にメッセージを送ろうと、スマホを手に持った時、ドアがロックされた。

「マ、マイカさん、居るかな？」

「え、ユナ君！？」

扉の向こうから聞こえてくる声に、びっくりしたけど、すぐに、嬉しい気持ちがいっぱい、胸にひろがる。

「居るわよもちろん！ お見舞いに来てくれたんだ、さあ、入って入って♥」

あわよくば、私のおちんぽもしゃぶってもらおうと、私は扉の方をじっとみつめた。

すると、扉が開いて現れたのは、

「し、失礼します……」

「……え」

メイドの格好をした、ユナ君だった。

「……や、やだ、やっぱり恥ずかしい。このメイド服、スカートも短いし、それにショーツもスケスケでHだし、お尻は丸出しだし！」

「な、なんでユナ君、そんな格好を……」

元々女の子みたいにかわいいユナ君だから、メイドの格好が似合わないはずがなかった。顔を真っ赤にしながらも、ベッドに座る私の所へ近づいてくる。

「なんでって……マイカさんが絶対喜んでくれるって言われたから……」

「言われたって……誰に……」

私の質問には答えずに、ユナ君はスカートの裾をもって持ち上げた。ショーツに包まれたかわいらしい童貞ちんぽが、私の目に飛び込む。

「ご……ご奉仕させていただきます……マイカお嬢様……」

そして、後ろを振り返って、お尻の部分がくり抜かれて、丸出しになってるお尻を見せながら、

「男の娘メイドの女装オマンコで……いっぱいご奉仕させてください……！」

その言葉を聞いた時、私の中で何かがぷつんと切れた。

「ひゃあ！♥」

気がついたら私、ユナ君のおしりおまんこにしゃぶりついちゃってた♥ だ、だって～、こんなかわいいおしり見せられたら、我慢できないわよ～……♥

「汚い！ 汚いよマイカさん！♥」

「ユナ君に汚い所なんかないわよ♥ 好き♥ 男の娘のおまんこの味大好き♥」

舌をいれると、きゅっと、肛門が私の舌をしめつけてくる♥ 縦割れの線にそって、舌を上下へと動かす。

「あ、ふにゃあああああ～～ん♥♥♥♥」

気持ちよさそうなユナ君の声が聞こえる♥ 私、もっと調子にのって、音をたててユナ君のアナルをなめ回す。

じゅる♥ ひちゃ♥ ちゅ♥ (ちゅ♥

「だ、駄目だよマイカしゃあん……♥」

「マイカさんじゃなくて、ご主人様でしょ♥」

「ご、ご主人様♥ マイカお嬢様♥ もう許してくださ～い♥」

「だ～め♥」

後ろからお尻を舐めながら、私も、自分のチンポを思いっきり扱いちゃってる♥ 最高のオカズをネタにして、チンズリオナニー凄い気持ちいい♥

ああ、こんな幸せでいいのかしら……♥

「い、いぐ、いっちゃう、いぐうううう♥♥♥♥」

「わ、私もおおおっ♥ んっふうっ♥」

ぼぼびゅう♥ ぼびゅ♥ びゅるるるうう♥

「きんたまにぎりやないでえええええええ〜〜♥♥♥♥ んへえええええ♥♥♥♥」

私の意地悪にユナ君は怒って、滅茶苦茶にキンタマとチンポを攻撃してくる♥ けど、それが気持ちいい♥ 私のちんぽとお金玉、全部ユナ君に主導権握られてる♥ りゃめ♥ こんにゃの耐えられないよほお♥

「い、いぐっ♥ メイドからご主人様の下克上ちんぽフェラ♥ 無理よ♥ 無理♥ お嬢様じゃいられなくなっちゃうわ♥ 身も心もちんぽも奴隷になりさがっちゃう♥ いぐううううんふおおおおんふへええええええっ♥♥♥♥♥♥」

どびゅらららららららららら♥

「んう♥」

「ああ、でりゅ♥ でりゅ♥ メイドにでりゅ♥ 私の金玉ミルク全部ユナ君に捧げちゃう♥ ああメイドのお口にザーメン略奪されるのきもちいいの……♥」

ドキドキしながら、ゴクゴク、喉を鳴らして私のザーメンを飲んでくれる、ユナ君の顔をみつめちゃう♥

……ユナ君も、いつもどおり、精液を飲んだだけで射精したみたい♥

口を離すとユナ君は、そのまま私の体をおっぱいを潰しながら抱きついてきた♥

「ぼ、僕が好きなのはご主人様、マイカさんだけです。じょ、冗談でも、他の人のちんぽの事なんか話に出さないでください♥」

「ひゃあ、ユナくうん♥」

とっても嬉しい事を言ってくれたユナ君を、私もまた抱きしめた。恋人同士の甘い時間……。

……でもその間も、お互いのちんぽが擦れ合っちゃう♥ すぐにお互い、だらしのないアへ顔になった♥

「ユ……ユナく〜ん、私、メイドさんの女装マンコにおチンポねじこみたいの♥」

「僕も……ご主人様のおちんぽ欲しいです……♥」

私は仰向けに寝転がった♥ ユナ君は一度立ち上がって、エロ蹲踞の姿勢で私のチンポに座り込むように、アナルにチンポの先をあてがった♥ 自分のおっぱいで、私のおちんぽはみれないけど、ユナ君のエッチな顔はバッチリ見える♥

ずぶずぶららららら♥



「んひいいいいいい♥ 予告なくチンポ挿入は禁止よお〜♥ ゆっくり入っていくう♥ オスマン
コ肉がねっとり病み上がりチンポに絡んでくる〜♥♥♥」

「あ、あ、しゅき♥ ちんぽ入ってくる♥ ちんぽしゅき♥ ご主人様〜♥」

完全にエッチなメイドさんになりきったユナ君は、私のふたなりチンポを、ゆっくりくわえ込んでいく
♥ 根元まで飲み込むのに、十秒くらいかかった♥

「ご、ご主人様、オスマイドのアナルせんずりで、ご奉仕させていただきます♥」

「ア……アナルせんずりって何い……♥ どこで覚えたのそんな言葉あ……♥」

私の質問には答えず、そのまま腰をゆすり始めた♥

ああ、気持ちいい♥ ベッドでずっとむらむらしていたおちんぼ、たんったんったんっ♥ ってリズムカルに犯してくれる♥

「しゅ……しゅごいわこのメイドオナホ……♥ 何もしなくても、おチンポをケツ穴でズリズリ扱いてくれる♥ 優秀♥ 優秀すぎるオスマンコメイド♥ お給金上げちゃう♥ ケツマンコメイド長に抜擢しちゃうわ♥」

「お、お気に入りいただけ、光栄です♥♥♥」

自分のおっきなおっぱいを、手で左右にわけて、ユナ君の股間の様子を見る♥

私のおっきなちんぽの上で、自分のチンポを上下左右に振り回しながら、ロデオマシーンにまたがるように、腰を振っている♥ 気持ちいい～……こんなの駄目になっちゃうわ～……♥

「ご、ご主人様、僕のお尻マンコ気持ちいいですか♥」

「最高♥ 最高よ♥ メイドアナルが私のおチンポをしっかりと扱いてくれるの♥ それに、顔がとってもかわいい♥ チンポに駄目になってるスケベな顔♥」

「は……恥ずかしい……♥」

顔を真っ赤にしながらも、腰を振るのはやめないユナ君♥ メイドになってもらってのラブラブ逆アナルセックス♥

私達の限界は直ぐだった♥

「だ、出すわよ♥ メイドにっ♥ ほら、しっかりケツ締めて、ご主人様のザーメンお尻でゴクゴク飲みなさいっ♥」

「くださいっ♥ くださいっ♥ ご主人様の高貴な金玉ミルクで、メイドの男の娘マンコ妊娠させてくださいっ♥」

「射精す♥ 射精すわっ♥ あ……んおひょおおお♥♥♥」

「ひゃあああああん～～～っっっ♥♥♥」

どっぴゅっぴゅっぴゅ♥ びゅるううう♥ どっぴゅん♥
びゅ(う♥ びゅ(い)ゅうう♥



金玉を震わせながら、騎乗位のユナ君の体が、一瞬浮き上がるくらいの量の精液を、私は思いっきりぶちまけた♥ お尻の穴を締め付けながら、ユナ君も射精して、私の顔とおっぱいをドロドロにした♥ はああ〜ん♥ 気持ちいい……♥ 世界で一番幸せな気分よ……♥

「ご、ご主人様あ……♥」

「あら、うふふ♥」

繋がったまま、倒れ込んで、私のおっぱいに顔をうずめるユナ君♥ 私はユナ君の頭を撫でてあげた♥

「メイドですの、気持ちよかったかしら？」

「……う、うん、マイカさん♥」

「そっか、それでしたら、今度は私が、ユナ君のメイドになってあげてもいいわよ？」

「え！？」

私の言葉に、ユナ君は顔を真っ赤にして、同時にお尻の穴を締め付けてきたから、思わず私はまた射精してしまった♥



「ところで、そのメイド服は誰に貸してもらったの？」

「屋敷に入ったら、背の高いポニーテールのメイドさんが貸してくれたんだけど」

「……それ、私のお父様ね」

「え」

「ふたなりのお母様にご奉仕する時は、時々その格好なのよ、こんな感じで」

「ええ！？ このスマホの画像で、メイドさんにおちんちん入れてる子、マイカさんより若いんじゃないか…！」

「これで二人供40代なの……」

「ええええええええええ〜〜〜〜！！！」

「……ち、ちなみになんだけど、ユナ君は私のおちんぽ一筋っていつも言ってくれるけど、お母様のはダメ？」

「な、何言ってるの！？」

「お父様も交えて、親子ふたなり逆アナルセックスとかしてみたいかなあって……」

「そ、それは～……」

「だめ～……？」

「ええっと、ええっと……」

体験版はここまで❤️

続きは製品版で❤️